

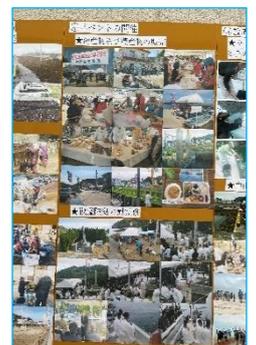
集落支援だより No.5



9月2日、村岡県知事が、様々な分野で活動に取り組む方々から、直接意見をお聴きする「元気創出!どこでもトーク in 柱島」が、福田市長、地元県議会議員、市議会議長も出席して開催されました。柱島での開催は、平成21年に開催されて以来、14年ぶりとなります。たくさんの大漁旗と島民の方々の出迎えを受け、急遽、記念撮影会となりました。



柱島港に到着後、柱島の商店や旅館の現状、特産品である、「ひじき」の加工場の様子、島の主要産業のひとつである漁業に関する取り組み、また、地元要望を受けて県の元気生活圏活力創出事業を活用して市が実施した現場などを地元住民の方から説明を受けながら視察しました。特に、天日干しされた「ひじき」は、興味深そうに試食されていました。





昼食会に、婦人会の方々の手作りによる、「ひじきの煮物」「フルーツ入り寒天」が用意され、大変好評でした。婦人部の皆様方、前日の準備、当日の配膳など、ありがとうございました。



昼食会では、集落支援員（金丸）と柱島に赴任している地域おこし協力隊員（横山）が柱島、端島、黒島の概況や島の特産品、島民の方々による、島の活性化に向けた取り組みなどを紹介し、自然景観に恵まれた「柱島3島」の観光資源や住みやすさをアピールしました。

村岡知事、福田市長、地元議員と錚々たるメンバーの前での発表はさすがに緊張しました。

午後からの「意見交換会」では、柱島・端島・黒島の自治会長をはじめ、岩国市漁協柱島支店、島づくり推進協議会、柱島婦人会の代表者7名の方から、人口減少や少子高齢化の進行により、産業活動の停滞や後継者不足の問題、島の抱える課題などを知事、市長とともに、幅広いテーマで意見交換を行いました。

主なご意見として、「トイレの水洗化」、「イノシシ対策」、「島内の道路、漁港の整備」、「岩国港の棧橋の改修」、「漁業後継者の育成」などがありました。

最後に、主催者を代表して、県知事から、地元岩国市と一体となって、皆さんの島づくりの取組を後押ししていきたいこと、ご意見、ご提案は、今後の離島振興に係る施策の参考とすること、人口減少・少子高齢化社会にあっても、県民誰もが、山口ならではの豊かさと幸福を感じながら、未来に希望を持って暮らせる「安心して希望と活力に満ちた山口県の実現を目指します」と挨拶され、意見交換会を終了しました。



「お見送り」

全日程が終了し、再び多くの島民の方が港に駆けつけて来られました。知事や市長は一人ひとりと握手を交わし、なごりを惜しまれて、いつでも手を振られていました。

